

議会報告会報告書

開催日時	平成 28年 11月 7日(月) 午後7時00分～午後8時58分				
開催場所	南郷地区生涯学習センター(東中学校区)				
参加人数 (議員・事務局除く)	65名				
出席議員	3班	草賀章吉 野口安男	内藤澄夫 渡邊久次	堀内武治 大場雄三	雪山敏行 小沼秀朗
役割分担	班 長	草賀章吉		司会進行	雪山敏行
	テーマ①	渡邊久次		テーマ②	大場雄三
	テーマ③ 特別委員会 中間報告	内藤澄夫 野口安男 小沼秀朗		記 録	大場雄三
	受 付	内藤澄夫		受 付	堀内武治
報告に関する質疑 テーマ①	(質疑)		(応答)		
	Q 今後も議会報告会を継続していくと思われるが、もっとわかり易くするために進捗状況や今後の計画について明らかにしたらよいと思うが。		A 議会としてのチェック機能を果たしながら、今後の計画や進捗状況を説明していきたい。		
テーマ②	Q 健診について、人間ドッグに行っている場合などカウントの仕方についてどうなっているのか。 Q 報告会の資料はどの時点で出来上がるのか、事前に提示してもらえれば、より理解が深まっていくのではないかと。		A 統計の方法についても厳正化していくよう提案していく。 人間ドッグも中東遠総合医療センターと遠州病院で受けた場合ではカウントが異なるということもある。 A 議員自身が資料を作成しているため出来上がりは約2週間前くらいである。事前配布ということは難しいがホームページ等で公開できるように検討していく。		

	Q 在宅医療推進員について、どんな役割をしているのか。健康格差について、社会的格差も課題ではあるが、経済的格差のほうが重要ではないか	A 在宅医療推進員は主に医師を支援する活動をしている。経済的格差についても承知している、当局にも意見していく。
テーマ③	Q 市内全地域でまち協が立ち上がった。議員は市全体を見ていただきたい。定数削減には賛成。人口規模が同程度の定員にするのが望ましい。 Q 大東大須賀地域から聞くと、ところによると、掛川地域の人口の集中しているところは良いが南部では人口減少傾向にあり議員も出しにくくなって地域の声が届かなくなることが危惧される。北部と南部の人口を考慮するとバランスがとれないのではないか。 Q 人口も減少していることから、定数は削減すべき。掛川市よりも人口規模に対して少ない定数で運営している自治体もある。参考にしたらどうか。地域の代表だと考える時代は終わったのではないか。 Q 定数に関しては事前情報があったので自身でも調査を行った。議員 1 人当たりの人口を比較して富士宮市を想定すると定員 20 人が適当ではないか。歳費が 1 億 6300 万円かかっていることも考慮して削減の方向で考えていただきたい。人口が増えた時には定員を増やすことを考えればよい。	A 区長会からの要望についても重く受け止めている。皆さんの意見をさらに聞かせていただきたい。 A その通りでもある。利点と欠点を含めて協議していく。 A 人口について掛川市では今後増やしていくことを考えている。 A 人口規模が同程度の自治体を比較参考にして協議していく。

	Q 相対的なことを議論するのが議員の務め。他の自治体と比べるのはナンセンス。まち協が立ち上がったことで地域の声はまち協が伝えていくことから、議員は減らしてもよい。そのためのまちづくりではないか。 Q 保育士の離職率が高いことに驚いた。掛川市独自の子育て支援や保育士が離職しないような施策をとっていただきたい。	A 地域のことはまち協が提言できる。議会としても地域のことを考えることも必要であるとする。 A 保育士の現場が過酷であることは認識している。更なる支援をしていくが近隣と競争にならないよう調整していくことも必要とする。
意見・提言等	(意見・提言等)	(対応)
	Q 中央小の学童が定員オーバーな状態であり、耐震化されていない地域学習センターで対応している。また、ひとり親世帯も増加している。少子化は進んでいるが学童のニーズは増えている。 Q 定数の問題は数字だけでは判断できない。定数が削減されれば女性の進出も困難になると考える。また議員一人一人もっと個性があってもよいのではないかと、他の自治体を真似る必要はない。 Q 公共交通に関して、もっと大きな視点で将来像を描いてもらいたい。掛川市公共交通会議も開催しているので情報をリンクしてってもらいたい。	A 保育園拡充の次は学童の拡充だと考えている。今後、他の地域でも学童の課題は出てくると思う。議会としてもしっかり考えていきたい。 A 男女は同権だと考える。どんどん女性にも進出してもらいたい。 A 短期的長期的課題があるので情報交換しながら将来について検討していきたい。

	Q 税の配分について議会に託している。受益者負担ということも重視すべきと考える。時代背景も考慮してやるべきことを精査して施策をとるべき。	A 議会としても、意見をいただいたので、時代背景も考慮して今後取り組んでいきたい。
--	--	---

議会報告会報告書

開催日時	平成28年11月7日(月) 午後7時00分～午後9時00分				
開催場所	大須賀支所市民交流センター(大須賀中学校区)				
参加人数 (議員・事務局除く)	41名				
出席議員	1班	山本 行男	高木 敏男	山崎 恒男	榛葉 正樹
		松本 均	窪野 愛子	栗原 通泰	
役割分担	班 長	山本 行男		司会進行	榛葉 正樹
	テーマ①	松本 均		テーマ②	窪野 愛子
	テーマ③	山崎 恒男 栗原 通泰 高木 敏男		記 録	栗原 通泰
	受 付	山崎 恒男		受 付	
報告に関する質疑 テーマ①	(質疑)			(応答)	
	特になし ＊資料で掲載されている「中東遠総合医療センターの充実」および「水道事業」について自由討議の中で意見が出された。				
テーマ②	質疑なし				
テーマ③－1	☛区長会連合会から議員定数削減に関する要望書が出ているが、資料には削減理由が書かれていない。まち協が設立され大須賀地区でも4地区で活動が展開されている。こうしたことを踏まえて議員定数削減について検討願いたい。 ☛私の議会に対する意見であるが、3つのテーマそれぞれが特別委員会を設置してやらなければならないのか。常任委員会でも出来るのではないか。議会でも行革を訴えているなら、あえてお金が			☛今年の春、市内全域でまち協が設立され活動が展開されていると承知している。まち協はまちづくりとしての活動があり、議員は議員としての責務がある。いずれにしてもまち協が活発に活動を展開されていくことと議員定数問題は慎重に検討したい。 ☛ご意見として承る。これらの意見については、特別委員会のあり方含めて議会に伝えます。	

	かかる特別委員会でやることは疑問である。是非検討願いたい。 ☛議会改革の検討の中で抜けているものがある。それは議員歳費を引き下げることが検討されていない。引き下げて議員を増やすことも検討しないのか。歳費の引き下げを検討すべきと考える。 ☛平成 29 年 4 月から実施とあるが、住民周知期間がなく住民軽視ではないか。市民の声を聴くと言っているが、今の報告を聞くと出来レースと思える。時間的余裕をもって取り組む必要があると思う。 以上私の意見であり答弁はいらない。	
テーマ③－ 2	質疑なし	
テーマ③－ 3	質疑なし	
意見・提言等	(意見・提言等)	(対応)
自由討議	☛水問題について伺う。平成 25 年度の議会報告会で「水道事業の現状と課題」で大須賀地区の地下水活用について意見を申し述べた。その後どのようなになっているか知りたい。県の経営とすることと責任水量制も問題であり、ぜひ議会としても検討願いたい。	☛提言をまとめ市長に提言した。現在水道ビジョンを作成中であり、大須賀地区の地下水活用についてもビジョンの中で示されてくる予定であり、その他に企業団に対し受水費の低減要望や管路の耐震化などビジョンとして示されてくるのでもう少し時間をほしい。

	●中東遠総合医療センターについて 安心できる地域医療として設立されたが、待ち時間が3時間待ちもある。30分で6人位の患者を診ていると聞く。救急患者についても90分待ちもあると聞く。医師や看護師の増員が必要と考える。現状について議会としてどのように考えているのか伺う。	●開業当時は市民から多くのご意見を頂いた。市民として要望はありますが、問題、課題はどこの病院にもある。医師もスタッフも一生懸命努力され改善に努めていることも皆さんにも知ってほしい。 議会としても市民の意見を改善に結びつくよう努めます。
--	---	---

議会報告会報告書

開催日時	平成28年 11月 8日 (火) 午後7時00分 ~ 午後9時00分				
開催場所	栄川中学校 多目的ホール (栄川中学校区)				
参加人数 (議員・事務局除く)	46人				
出席議員	2班	大石 勇	鷲山 喜久	二村 禮一	山本 裕三
		中上 禮一	鈴木 久男	鈴木 正治	
役割分担	班 長	大石 勇		司会進行	鷲山 喜久
	テーマ①	二村 禮一		テーマ②	山本 裕三
	テーマ③	中上 禮一 鈴木 久男 鈴木 正治		記 録	中上 禮一
	受 付	鈴木 久男		受 付	鈴木 正治
報告に関する質疑	(質疑)			(応答)	
	Q 特定健診について、医療機関の考え方とミスマッチがあるのではないかと。生活習慣病で検査しているので受診しない人もいるし、医療機関でも受診しなくてよいとの指導もある。また、通院している人も受けて下さいとの案内もあるが。			A 未受診の理由として、4分の1の方は通院しているので受けていないとの回答をしていることやJ Aのことなどもあるので細かい部分を掘り下げていく必要があると思っている。	
	Q 人間ドックを受けている人は受診していないが、この数値が無視されている。特定健診だけを取り上げて50%ということではなくて全体の中で判定する必要がある。 受診率向上のポイントは3つあると思うが、まちづくり協議会の中でも専門部会を設けて努力している。地域との関係をどのように考えているのか。			A 数値はしっかり取っていききたいが、受診率は上げていきたいと思っている。地域という視点も大事であるので今後検討していきたい。	

Q

毎年各地区の受診率が発表されているが日坂地区は低い。まち協の健康部会で向上策を検討している。先ほども話に出たが、受診していても数値に出ないということで、このことを考えれば市のデータはでたらめとしか思えない。実情に合ったデータを出して欲しい。

Q

お達者度日本一を目指しての基本条例制定は、医療費削減のためなのか、健康が大事ということで議論されたのか。市議会の考え方を聞きたい。

Q

3歳児から義務教育化という話があったが、国がやることであって個々の市町でできるのか。

Q

上屋代に保育園があって通園している子どもが多い。送迎してくれるので便利で、安心して預けられる。市でも同じようにして欲しい。

A

様々なご指摘をいただいたので、データの取り方については検討していきたい。

A

第一に健康で長寿であって欲しいということ。また、お達者制度についても介護にならないように日頃から気をつけて欲しいという願いを込めて制定した。要因として医療費削減がないとは言えない。終末期医療についても市民の皆さんに考えてもらいたいとの気持ちがあって制定した。

A

国でやってもらうことで解決できる問題もたくさんあるので、周辺市町と協力して運動して行きたいと思っている。

A

検討したい。

Q

高齢者対策ですが、医療費が 40 兆円、10 年後はかなりの額になる。しかも来年 4 月からシステムが変わる。老々介護等課題も見えてくるが、どのように考えているのか。

Q

子育てに関して、6 人に 1 人が貧困状態である。また、母子 2 人に 1 人は低所得で貧困状態である。助ける行政を望みたい。

Q

保育士不足について、若い世代はお守りという考え方は持っていない。子育てに関する希望を把握して欲しい。
資格を持っている方が多いにもかかわらず不足している現状を分析する必要があると思う。保育士の声を聞くことが大事ではないか。

Q

血圧計、握力計について、中年になると上半身の筋力はピーク時の 80%を保持、下半身は 50%を割る。バランスがくずれると転んだりするので下半身の筋力を鍛える必要がある。筋力アップできるような体操の普及が大事ではないか。

A

負担額については国が決められているので市で関与出来ないところがあるが、担当課の話では、今後市町村におりてくることも考えられるとのことである。市町は最後のセーフティネットであるので、そのことも踏まえて検討の余地があるのではと個人的には思っている。

A

お達者度をのばして健康寿命を延ばすことが医療費削減につながると思うので、これを子育て支援にまわせたらと考えている。

A

働いている世代の希望については個々の人生設計によって変わらると思う。子どもを安心して預けられることなどが解決策としてあると思うが、市としてできることは模索していきたいと思う。
保育士が辞めていく理由として、賃金が安い等があると思うが、長く続かない要因を聞き、解決に向けて検討していきたい。

A

適切なトレーニングが必要である。インボディが効果的であるのでまち協等で利用して欲しいと思う。

意見・提言等	(意見・提言等)	(対応)
	Q 住民投票条例が制定されたが、掛川市は常設型という特徴がある。議会の同意なしで住民発議できるとある。市長が総合的に判断して決定できるが微妙なところがある。最終的には議会が決定するということであるが、投票結果がイコールとなるのかどうか。 Q 議員定数について、1市2町が合併して広大な行政面積であるので、今以上に減らすことはいかかなものか。 政務活動費について、掛川市は不正使用ということではないが、目的外使用ということで法廷で判決が下され2会派が返還している。返せばよいというものではない。会派は説明責任があるのではないか。市議会としてのコメントも必要ではないか。 Q リニアについても昨年も発言したが、生活用水が危ない状況である。 静岡市、県知事への要請が見えないように思う。生活用水を守るという観点が必要ではないか。	A 27条で規定されているとおりである。市長、市議は投票結果を尊重するよう努めるとしている。内容を再度確認してしっかりと身につけていきたい。 A 事務用品について全額対象であったが、見解の相違があり個人的な使用も認められるということで2分の1負担となった。領収書の偽造など他市のようなことはない。 A 水は大きな課題である。県も入って進めている状況であるが市も努力していく。

議会報告会報告書

開催日時	平成28年11月9日(水) 午後7時00分～午後9時05分				
開催場所	市役所4階会議室(西中学校区)				
参加人数 (議員・事務局除く)	53名				
出席議員	1班	山本 行男	竹嶋 善彦	高木 敏男	山崎 恒男
		榛葉 正樹	松本 均	窪野 愛子	栗原 通泰
役割分担	班 長	山本 行男		司会進行	榛葉 正樹
	テーマ①	松本 均		テーマ②	窪野 愛子
	テーマ③	山崎 恒男 栗原 通泰 高木 敏男		記 録	栗原 通泰
	受 付	山崎恒男		受 付	竹嶋 善彦
報告に関する質疑 テーマ①	(質疑)			(応答)	
	質疑なし				
テーマ②	☛握力計配備については公民館など人が多く集まる場所にも設置し、継続して計測していくことが個々の健康管理に役立つことから、設置の拡大を計画する考えはないのか。 ☛自助共助公助は自助がベースであり自己の健康管理も同様と考えている。			☛身近で検診できることはとても大切なことと思いますので、市民の声に応えられるようにしたい。 ☛すばらしいご意見を頂いた。予算化をしていく必要もあり、議会でもみあげて当局側に意見反映していきます。 ☛自助共助公助で最近は近所という言葉があるが、議会としても同様な理解認識です。	
テーマ③-1	☛議員定数の議論だけではなく議会の活性に関する質的な問題も議論していくべきではないか。			☛「市民から求められる議員は」との見地での議論は深められてはいない。議員の資質を高めることは大切なことでありご意見を参考にさせていただきます。 ☛市民と議会との緊張感は議員、議会の資質を高める重要な要素であり、その事が議会として政策能力が高められていくと考えています。提言ありがとうございます。	

テーマ③－２	☛南部からの送迎乗用車が多くバスの発着所やロケーションバスシステム導入も検討願いたい。 ☛ＪＲのダイヤとバスのダイヤと整合性が取れるよう改善を求める。また中東遠総合医療センターのバスは利用客がほとんどない。必要性についても検討願う。 ☛掛川駅を中心に交通ネットワークを基本とし交通網を考えていくことだと思う。その中で駅南のバス停発着場所が分かりにくいという問題もあり改善を願う。	☛これからの特別委員会でＪＲダイヤとバスダイヤの整合性及び駅南口のバス発着所に関する件やロケーションバスシステムについても過去に試験した経緯もあり、課題として受け止め検討していきます。
テーマ③－３	質疑なし	
意見・提言等 自由討議	(意見・提言等) ☛市では今幼稚園児にフッ素で口を漱ぐことを実施している。このフッ素は飲み込むと体に悪い影響を与えるものであり問題として捉えている。市も関心を示されない事は問題だ。 ☛お達者度日本一の施策で、夕張市が取り組んでいる内容も参考になると思うので、その実態を調べ参考にしたら良いともう。	(対応) ☛議会では取り上げて議論していない。その件について勉強会も開催する機会も考えたい。(質問者から機会を与えてくれれば出席の意向もあると発言あり) ☛意見として受けとめます。

健康医療シンポジウム開催は議会として開催されたが少し違和感がある。条例が制定されたことから開催は執行側が行うべきと考えるがどうか。議会でその議論はされたのか。議会と行政執行側とは一線を画するのが本来の姿と思う。

今の議論と関係しますが、県主催のタウンミーティングがあり出席し、2025 年問題について話し合った。その中で在宅医療に関しては身近な市民が参画することで成り立つ。医者がいればとか看護師がいればという問題ではなく、地域の中で在宅を必要とする人を見守る身近な人たちがいないと在宅医療は成り立たない。条例を作られたことですから行政、議会、医療機関関係者等で継続的に市民に訴えていく取り組みが必要と思う

主張はその通りである。しかし議会として変わることも大切なことであり条例制定を高く評価している方もいる。議会も行政も市民に啓蒙していくことが重要であり大切なことであると判断し、実施したものであり理解を求めたい。

行政的発想と感じた。基本的な考え方は理解できるが、市民の皆さんに条例の趣旨目的を理解してもらう事が大切なことであり、今回の開催は行政との共催で開催した。線引きがないとかあいまいだと言われているが、それは心外だ。議会側の熱意として受け止めてほしい。

今まで議会で議論したことのない意見であり議会運営に参考にさせて頂く。今後も議会として市民に向けて情報発信をしていきます。

条例を作って終わりではなく条例に伴っての諸施策が必要であると考えます。今後とも関係各階層の皆さんのご意見を伺いながら条例制定の趣旨を踏まえ、内容充実に努めていきたいと考えます。

議会報告会報告書

開催日時	平成28年11月10日（木） 午後7時00分 ～ 午後8時45分				
開催場所	和田岡地区学習センター（桜が丘中学校区）				
参加人数 （議員・事務局除く）	35人				
出席議員	2班	大石 勇	鷲山 喜久	二村 禮一	山本 裕三
		中上 禮一	鈴木 久男	鈴木 正治	大石與志登
役割分担	班 長	大石 勇		司会進行	鷲山 喜久
	テーマ①	二村 禮一		テーマ②	山本 裕三
	テーマ③	1. 中上 禮一 2. 鈴木 久男 3. 鈴木 正治		記 録	鈴木 久男
	受 付	大石 與志登		受 付	
報告に関する質疑	（質疑）			（答弁）	
テーマ①	Q 人口減少からプラスになるのはいつ頃の計画か。			A 2025年には5千人減、2040年には12万人を目標にしている。	
	Q 市民人口確保は近隣市町との競争にならないか。			A 企業誘致をして働く場の確保により社会増に期待。又、安全安心のまちづくりをして自然増を図りたい。	
	Q 水道使用量は減っているのに企業団から買う水価が変わらないのは何故か。			A 大井川企業団からの購入水価は契約当時から一定となっている。近いうちに改訂されることになったので、近隣市との広域化を図り改善される見込み。但し老朽管対策への投資が新たに生じる。	

テーマ② 健康	Q 健康医療基本条例に基づき多くの健康長寿プログラムが整っているが、参加者が少ないのが気掛かり。 はたして市民の健康に繋がっているのか疑問。静岡県のふじのくに健康長寿プログラムは、参加者にポイントを与える等のやる気を持たせているのが特色。市では何故やらないのか。 Q 健康は自己管理で築くもの。個々の日常生活の中に意識的にプログラムの作成に導くことが効果的と思う。	A お達者度ランクを上げる為、特定健診受診率を高める努力をしている。「ふじのくにプロジェクト」の検証もしてみる必要があるかもしれない。 A 貴重な提言有難うございました。
テーマ③－１ 政務活動費の開示	Q 掛川市の政務活動費の公開は、開示請求があれば出来る制度になっていると伺う。ネットで公開できる制度に改正できないか。	A 事務量等考えれば課題も多い。今後検討したい。
テーマ③－３ 子育て支援	Q 住み良い市を考えた場合、子育て支援には浜松市のように母親支援の環境（悩みのケア等）を整えれば人口の自然増に繋がると思う。 Q 出産祝い金制度は周辺市町にはあるが掛川市にないのはなぜか。子育て世代の人からは不満が多い。	A 参考にさせて頂く。 A 周辺市町と金額面で競争となっていて課題も多い。掛川市にも過去にはあった。持ち帰り検討する。

意見・提言等	(意見・提言等)	(対応)
テーマ外 農振整備計画変更を	Q 農村地域に住む者にとっては三世代同居が理想である。家の周りに自己所有地があっても宅地転用はどうにもならない。市の政策として何とかしなくては地域がどんどん衰退してしまう。	A 三世代同居住宅を整備する場合、市独自の助成制度がある。農振問題は各地域で共通の課題となっている。
道路整備	Q 農振地域の多い「この地域」は住宅造成による人口対策が出来ない。規制緩和を市の施策として望む。	A 国の制度であり難しい。どこの地域でも同じ問題を抱えている。
道路整備構想	Q 原川付近の国道 1 号線整備が遅れている。毎日利用している専門ドライバーからも浜松・静岡間でここが一番渋滞する場所と指摘している。整備促進を。	A ここよりも大井川鉄道や岡部付近が厳しいと伺う。これが終わリ次第整備すると聞いている。
その他	Q 東名「掛川西 IC」の将来構想は描けられないか。新幹線や在来線を高架で渡し、計画中の西環状線を経て第 2 東名 IC を結ぶ道路計画には夢がある。(制度上 IC 間の距離は 10 km 以上とのことだが 5 km でも可能のようだとの弁)	A まずは西環状線計画を具現化することを考えたい。
	Q 先日、何年かぶりに移動バスでの胸部レントゲン検査を行ったが驚いたことがある。それは男女が同じバス内で行われ、女性が下着姿で恥ずかしそうに順番待ちしている様子は 40 年前にタイムスリップした感じを受けた。	A 持ち帰り調べた上対応したいが、受診が受けやすい環境づくりへの改善は必要と思う。

議会報告会報告書

開催日時	平成28年11月11日（金） 午後7時00分～午後9時00分				
開催場所	大東支所3階市民交流センター（大浜中学校区）				
参加人数 （議員・事務局除く）	64名				
出席議員	1班	山本 行男	竹嶋 善彦	高木 敏男	山崎 恒男
		榛葉 正樹	松本 均	窪野 愛子	栗原 通泰
役割分担	班 長	山本 行男		司会進行	榛葉 正樹
	テーマ①	松本 均		テーマ②	窪野 愛子
	テーマ③	山崎 恒男 栗原 通泰 高木 敏男		記 録	栗原 通泰
	受 付	山崎 恒男		受 付	竹嶋 善彦
報告に関する質疑 テーマ①	（質疑）			（応答）	
	質疑なし				
テーマ②	質疑なし				
テーマ③－1	☛議員1人当たり何人ぐらいの市民が妥当か聞かせてほしい。 ☛議員定数削減は平成33年の選挙までにしっかり考えて・・との意見も出ているようだが何を目的に減らすのか。 ☛区長会連合会から定数削減の要望書が出ているが、来年4月から実施するのか。 ☛議員削減すると郡部の議員は減少する危惧があり市民の声が市政に届かないこととなり反対だ。			☛適正な人数は・・との質問であるが、分からない。法律で何人に1人と厳格に定められていない。近隣市町の定数もまちまちであり、それぞれの自治体で主体的に定めている。 ☛定数減については近隣市町の実態をみて、当議会としては平成29年4月選挙から適用したいと考えている ☛地域代表的な立場が強いと思う。地域代表にとどまらず全市的立場に立つ議員であってほしいとの思いがある。皆さんにもそうした見地で育ててほしい。	

テーマ③－２	☛デマンド型乗合タクシーの利用が高いとは言えずと書いてあるがその理由は何か。 ☛医療センターを利用する人もひとりひとりの受診時間も違い統一行動がとれないところに乗合率が低いことにつながっているのではないか。	☛運行しようとする時に調査をしますが、「あれば便利だから」と考えている市民の皆さんが多く、実際利用する段階で諸々の制約があり利用を避ける傾向である。アンケート実施前に運行計画を立てその案を住民に示し、運行全般にわたりどのようにすれば利用していただけるかを地域で考え立案し、それをアンケート調査に反映し住民主体の運行計画が必要と考える。
テーマ③－３	☛保育士不足の原因は、待遇の問題である。賃金体系で低いという問題を根本的に改善しないと解決しないと考える。知恵を出すことからお金を出すことをお願いしたい。	☛特別委員会でまず一番には「待遇改善」を図ることが何よりも重要だという認識に立っております。次年度、国は保育士の待遇改善で賃金の２％アップを図るとはありますが十分とは言えない。今後とも待遇問題にかじを切り発言していきたい。
意見・提言等 自由討議	(意見・提言等) ☛まちづくり交付金は使途に制約があり使いにくいし、わかりにくい。交付金は年度内に使うという制約があるが、翌年度に繰り越しもできるような制度を望みたい。 ☛下水道料金について、大坂地区の接続率は 80％台であり 20％弱の家庭では下水道料金の支払いは免れている。公共下水道というなら未接続の家庭でもそれなりの料金（上水道の使用量などで）の支払いがあってしかるべきと考える。 あくまでも公平な負担を望む。	(対応) ☛去年から今年にかけて交付金制度が設けられた。使い勝手の良い交付金制度とするについてはどのようにしていけばよいか、議会の中でも検討したい。 ☛接続率問題は議会の中でも当局と機会あるごとに議論されている。未接続の背景は高齢者の二人暮らしや一人暮らし世帯、また将来家族が住む予定がない、経済的理由等の背景を抱えている事をご理解願いたい。質問の上水道使用量に合わせて下水料金を支払うという意見については検討課題として受けとめます。

	■南部方面の企業も津波による危険意識からある企業が一部移転をする状況もある。市として何らかの歯止めをかけているのか。	■補足説明として、大井川上水道企業団に受水料金の見直しを 7 市で要望した。その結果、立方メートル当たり基本料金が 34 円から 31 円、使用料金は 38 円が 32 円となり掛川市は年間 1 億 5 千万～1 億 6 千万円のコストダウンとなる。 ■企業誘致については、過去から近隣市より力を入れてきているし誘致も成功している。他市からも評価を受けている。今数字で示すことができませんが資料が必要なら用意します。
--	---	--

議会報告会報告書

開催日時	平成28年 11月 14日(月) 午後7時00分～午後8時58分			
開催場所	原田地区生涯学習センター(原野谷中学校区)			
参加人数 (議員・事務局除く)	33人			
出席議員	3班	草賀 章吉	内藤 澄夫	堀内 武治
		野口 安男	渡邊 久次	大場 雄三
役割分担	班 長	草賀 章吉		雪山 敏行
	テーマ①	渡邊 久次		大場 雄三
	テーマ③	内藤 澄夫 野口 安男 小沼 秀朗		大場 雄三
	受 付	内藤 澄夫		堀内 武治
報告に関する質疑 テーマ①	(質疑)		(応答)	
	中東遠総合医療センターへの補助金が約15億円だと聞いているが、現在の経営状況と今後の見通しはどうなっているか。		病院建設で250億円借金があるため、経営は厳しく10億円の追加出資も行った。しかし外部評価としては、各種ランキングで上位に評価されている。皆さんには病院を支えるという意識を持っていただきたい。	
テーマ②	地区に出向いての健診などを行っていただいているが受診率が低いが今後も健康相談などをこまめにやっていただきたい。 また、公民館のトイレが和式のままである。洋式に改修するための補助金を検討してもらいたい。		統計によると未受診者の医療費が高い結果になっている。地域に出向いてみなさんに関心を持っていただけるように提案していく。 トイレの改修について、補助金の検討を当局に要望していきたい。	
	訪問診療を行っている開業医はどのくらいあるのか。 インボディの活用について、より多くの方に使っていただけるようにPRしていったらどうか。		現在、在宅医療支援診療所は7か所ある。大須賀地域ではゼロだが、今後議会としても推進していきたい。インボディは高価な機械でなかなか外には持ち出せないが、より多くの方に活用していただけるようにしていきたい。	

テーマ③	身内が保育士だが、労働環境が厳しいと感じている。三世代同居でないと務まらないと思う。どのような対応策があるのか。 原田地区の面積は広いが人口は少ない。議員は一地区のものではないというが、街中の議員が見てくれるわけではない。役も多く回ってきて議員の協力が必要である。議員のいない地区も増えたが人口の少ない地域では切実な課題である。また定数の見直しは区長会からの意見だということだが、どこの地区から上がってきた意見なのか。 原田地区は面積も広く議員に頼らざるを得ないことが多い。山側に住んでいると海側のことはよくわからない。定数削減には反対。どぶ板から人間関係まで議員に担ってもらいたい。区長会でも反対意見を出した。 時代の流れは削減方向だが市の財政状況はどうなのか。財政上余裕があるなら増やすことも考えて良い。ただ定数削減ありきではいけない。本来の役割ができなくなってしまうのであれば定数削減は間違いである。	まずは意見交換などを行い現状認識からはじめて、対応策をとっていく。 旧大須賀町では議員が 14 人いたが合併して現在では 2 名になった。人口集中地域とは状況が異なることは認識している。 区長会連合会からの意見は市全体の意見、総意だということにとらえている。
-------------	---	--

意見・提言等 その他	(意見・提言等)	(対応)
	防災について、ドローンの導入について掛川市ではどのようになっているのか。 市役所に行ったとき担当がいなくて話が通らないことがある。どうにかしてもらいたい。河川管理について、市と県の区別がわかりにくい。市と県で連絡を密にとっていただきたい。	先日、原泉地区でドローンを飛ばしていた。今月 29 日にも飛行と勉強会がある。今後防災面での活用に期待している。 まずはアポイントメントをとってから窓口に行ってもらったらい。地域の窓口はまちづくり協働推進課になっている。 河川管理者は袋井土木事務所だが、奥のほうへ行くと掛川市が管理する部分もある。

議会報告会報告書

開催日時	平成２８年　１１月１７日（月） 午後７時００分　～　午後８時５８分			
開催場所	初馬会館（北中学校区）			
参加人数 （議員・事務局除く）	８０　人			
出席議員	３班	草賀　章吉 野口　安男	内藤　澄夫 渡邊　久次	堀内　武治 大場　雄三 雪山　敏行 小沼　秀朗
役割分担	班　長	草賀　章吉	司会進行	雪山　敏行
	テーマ①	渡邊　久次	テーマ②	大場　雄三
	テーマ③ 特別委員会 中間報告	内藤　澄夫 野口　安男 小沼　秀朗	記　録	大場　雄三
	受　付	内藤　澄夫	受　付	堀内　武治
報告に関する質疑	（質疑）		（応答）	
	テーマ② 健康づくりなどで公共施設を使用する機会があるが、例えば６５歳以上の高齢者割引などがあればより利用しやすくなると思われるのではないか。 お達者度の順位について、下線が引いてあるのはどのような順位か。徳育センターで各種団体が集まり、お達者度について勉強会がありとても盛り上がった。今後も継続して開催していただきたい。		スポーツ施設などは指定管理制度をとっていて管理者が利用料金を設定することになっているが、割引制度についても提案していきたい。 下線が引いてある順位は市の部の順位です。各地域でも勉強会などを開催していくように当局に伝えていきます。	
	テーマ③ 議員定数について、様々な観点から見るのが大事。掛川市は県内でも面積が広い。パブコメなどで市民の声をよく聞き、拙速に結果を出すことのないよう慎重に、市民が納得できる形での結論を求める。			

	定数削減は、面積・人口割を考慮することが望ましい。議員 1 人に対する人口が 5000 人では市民の意見を聞き取れないのではないか。山梨県早川町では人口 1200 人だが 6 人の議員がいる。減らすのが良いばかりではない。 3～5 歳の義務教育化はどのようなことを目的としているのか。義務教育化に対応するには、保育士の数は何人必要になってくるのか。 一番感動したのは、市全体を見られる質の高い議員を目指し、定数よりも議員の資質が重要であるところだ。数の論理ではなくどんな議員が必要なのか発信していただきたい。掛川市の将来には不安を抱いている。 まち協の活動に対して議員はどのようなスタンスをとっているのか。 掛川駅についてどのように考えているのか、駅は市の玄関口だが、設備が不備で開発に力を入れる自治体にも遅れを取っていると思われる。近代化した駅に変わるのか。	3～5 歳の 96%が保育を受けている。幼少期の頃から義務化することにより、学校教育につなげていくことが検討されている。この議論はまだ始まったばかりなので具体的に保育士の手数は示すことはできない。 相模原市では N P O 法人が議員を採点している。来年は選挙があるが立派な人を出してもらいたい。 議員が地域に対して意見することはないが、市当局に対してまち協の進め方に対しては意見を出している。 現在の駅が市民のためになっているのか今後議会において検証していきたい。
--	---	---

	駅については、現在の駅に賛成の意見もある。西郷の局について、市に何度も言ってきたが講演会など開催されない。また直虎についても掛川とは関連が強いのに動きが見られない、観光資源にもなると思われるので積極的な活動をしてもらいたい。	
--	---	--

議会報告会報告書

開催日時	平成 28年 11月 24日(木) 午後7時00分～午後9時00分				
開催場所	大東北公民館(城東中学校区)				
参加人数 (議員・事務局除く)	35名				
出席議員	2班	大石 勇 鈴木 久男	鷺山 喜久 二村 禮一	鈴木 正治 山本 裕三	中上 禮一 大石與志登
役割分担	班 長	大石 勇		司会進行	鷺山 喜久
	テーマ①	二村 禮一		テーマ②	山本 裕三
	テーマ③	中上 禮一 鈴木 正治 鈴木 久男		記 録	大石 與志登
	受 付	大石 與志登		受 付	
報告に関する質疑 テーマ②	(質疑)			(応答)	
	Q. 高齢者対策には、現在の高齢者とこれから高齢者になるものに対する対策。この二通りの対策を講じていかねばならないと思う。先ず、現在の高齢者対策であるが、長野県には元気で長生きできるいろいろな仕組みがある。元気で長生きの理由は多種多様であることから、一つの支援だけというのではなく、田舎が元気のもとでいけるようないろいろな幅広い支援をやり、中高年が元気なまち掛川をめざしたらと思う。 一つ目は、小さい頃からの積み重ねが非常に大事だと思う。例えば、ご飯を食べるときに姿勢をよくして食べるなど日常生活の中で正しい習慣を身に着けていくことは、本当に必要であると思う。これからの幼児教育等に取り入れて欲しい。			A. 健康づくりは人それぞれ多様であろうと思う。協働のまちづくりを含めそれぞれの支援についても検討していきたいと思う。 健康づくりについては、生まれた時からしっかり積み重ねていかねばならない。課題は、生まれてから高齢者になるまで、その時点時点で担当課が変わっていくことであると思っている。従って、市民の健康管理を一人が継続してみることができないということは、委員会の中でも話がでておりました。子どもたちの健康管理意識を高めていくことは非常に大事であると思いますので、貴重な意見として参考にさせていただきます。	

	Q. 掛川市が健康づくりに積極的に取り組んでいただいていること、本当にうれしく思っております。健診の受診率のことではありますが、健診によって悪いところが見つかるというような、どちらかというと暗いイメージでとらえられる方が多いと感じております。しかし、健診は自分の体がどのくらい健康か、自分の体の立ち位置を知ることだと思っております。このようなことを前面に出し、健診を明るいイメージで考える機会にしていけたらと思っております。 Q. 健康に一番良いことは、食事をゆっくり食べることだとテレビで言っていたが、実際に機械で計ってもその通り出ていた。とにかくゆっくりと食べるようにしていきたいと思っている。参考までに言うておく。	A. 明るいイメージの健診となるよう心がけていきたいと思います。 A. ウォーキングも歩き方に気をつけないと効果はないと言われておりました。やはりしっかりとした指導があってこそいろんなことが実ってくるということです。食事の食べ方についても、同じであろうと思っています。これについては、私どもも持ち帰って研究していきたいと思っております。
テーマ③	Q. 議員定数の削減は反対です。今のままでいいです。賛成の理由が、掛川市は他市に比べ議員一人当たりの人口が低いとありますが、そんなことは無いと思う。また、区長会連合会から議員定数削減の要望が出されたということであるが、区長会は議員定数のことは関係ない。このことは議員で考えればよいと思う。	A. 区長会から言われたからということではなく、議会ではその要望が出る前から既に検討を始めている。誤解の無いよう申し上げておく。

	Q. 子育て支援について、子育てだけでなく、高齢者のことも色々考えてもらいたい。年金もカットされるし、高齢者の分を子どもの育成に使っていると思う。	A. 限られた財源の中で、掛川市も運営をしている。高齢者も厳しい状況にあると思うが、その中の一部を未来を託す子どもたちのために少し回せないだろうかということを検討している状況である。このことも考えていかねばならないと思っている。
意見・提言等	(意見・提言等)	(対応)
	Q. 議会だよりについて 以前磐田市の議会だよりをみたら、議案のすべてについて、賛成した者と反対した者が掲載されていた。一方、掛川市のものは、議案の可否しかなかった。これでは、議会の姿が見えないなと思った。形だけの「議会だより」ではないよう姿が見えるようにしていただきたいと思う。 今の形の「議会だより」であれば「広報かけがわ」の一部に組み込まれてもいいではないかと思うが、検討願いたい。	A. 議会でも、このことは検討している状況。検討中ということでご理解いただきたい。 ご意見のついては今後検討していきたいと思う。